

《担当者名》○白石 淳 [jun-jun@hoku-iryo-u.ac.jp]
 福間 麻紀 [m-fukuma@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

この授業は、前半では「初等中等教育の学校で福祉を学ぶ意義」について、後半では「スクールソーシャルワーカーの養成教育」の諸課題について学修する。前半では、小学校、中学校、高校にて児童生徒が福祉を学ぶ機会があるが、「福祉」を学校で学ぶ意義について追求し、加えて「何を」「どのように」して福祉を教えるのかということを考えたい。後半では、教育と福祉を繋ぐ「スクールソーシャルワーカーの養成教育」の諸課題、すなわちSSWの目的・価値やその人材養成上の課題などについて探求する。

【学修目標】

授業後には、次に示されたことができるようになる。

- 1) 福祉を学ぶ意義を、他人に説明することができる。
- 2) 福祉を教授する際に必要な、教材を開発するための基礎的な知識が身に付く。
- 3) スクールソーシャルワーカーの養成上の諸課題を指摘することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	福祉教育の意義	普通学校において福祉を教育する意義を考える。	白石 福間
2	福祉教育の方法	普通学校で福祉を教育する方法を検討する。	白石
3	障害のある子どもの学びの場	通常学級、特別支援学級・学校のどちらが適切なのか、また、それぞれの学校における課題を考える。	白石
4	分離教育とインクルーシブ教育	分離教育とインクルーシブ教育における課題を検討する。	白石
5	特別支援教育における福祉教育の意義	特別支援学校において学ぶ意義を考える。	白石
6	学校における福祉教育・教育福祉の課題	福祉教育の課題、教育福祉の課題を調べ、課題解決の方法を検討する。	白石
7	福祉教育の到達点	福祉教育の目標、実践上の目標を考える。	白石
8	福祉教育の実際	高校における福祉教育の実際と課題	白石
9	学校における福祉的支援の必要性	学校に福祉的支援が必要とされている背景について、学校や子どもを取り巻くさまざまな事象から考察する。	福間
10	スクールソーシャルワークの意義	スクールソーシャルワークの目的と役割を理解し、学校における活動の意義を考察する。	福間
11	スクールソーシャルワークに関わる学校教育の特徴	教育行政の仕組みや教育相談・生徒指導体制とスクールソーシャルワークとの関連について考察する。	福間
12	教育が連携する機関とその機能	関係機関との連携からスクールソーシャルワーカーの役割を考察する。	福間
13	スクールソーシャルワーカーの専門性と資質能力	事例を通して、スクールソーシャルワーカーに求められる専門性と資質能力を検討する。	福間
14	スクールソーシャルワークの課題と展望	スクールソーシャルワークの抱える課題とスクールソーシャルワーカー養成の課題と展望について、検討する。	福間
15	まとめ	まとめを行う。	白石 福間

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業の取組状況(意欲、態度) 50% 中間・最終の課題提出 50%

【教科書】

必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

日本スクールソーシャルワーク学会「スクールソーシャルワーカー養成テキスト」中央法規
日本福祉教育・ボランティア学習学会「福祉教育・ボランティア学習の価値と目標」万葉舎

【学修の準備】

各授業回の終了時に、次回までにしておく事項を伝えるので取り組むこと。教育・子どもに関する新聞記事に注目すること。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、臨床福祉学における高度な専門性と研究能力を修得するという臨床福祉学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。